



# 三つ柏

— MI TSU KASHIWA NO. 4 —

令和2年4月16日

## 聞いてください 校長の考えていること その2

自分の良いところを自分で言える子どもというのは素晴らしいです。言えないのが、日本の子どもたちの弱点と

言われているのですから。←（ここまで前号です。引き続き、お読みください。）

自分の良いところを知っていることで、自分に自信をもてますから、自分からやろう、誰とでもやろう、粘り強くやろうという意欲がもてます。それらは、きっと、これからの難しい社会を生き抜くための原動力になります。

前年度までの取組で、子どもたちは、自分の良さに気付いています。今年度は、それをもっと増やすようにします。職員みんなで取り組みます。当然ですが、「良さ」には根拠がなければいけません。あいまいなことを「良さ」と子どもに思わせてはいけません。例えば九九を唱えられない子どもに「九九をすらすら言えます」と言わせるのはだめです。そんなとき、九九を唱えられるように指導することや、その結果、「唱えられるようになってすごいね」とほめることが私たち教師の役目です。子どもたち同士でできるようになったことを認め合えるようにするのも教師の仕事です。これが、「良さ」に根拠を与えることであり、私たち教師のすべての指導は、ここにつながっているとさえ言えると思います。

保護者の皆様、地域の皆様には、子どもを見つめ、その子の良さを積極的に伝えてほしいと思います。それによって、子どもの自信がより高まり、立派な青年や大人になると思います。ご協力をお願いします。

二つ目の取組は、「対話」する力を、より高めることです。これも、前年度まで取り組んでいたことですが、より充実させたいです。「言葉」のもつ力には、すごいものがあります。私が関わったある子どもは、とても乱暴だったのですが、少しずつ暴力をふるわなくなってきました。話す力が付き、言葉で、相手にして欲しいことやイライラしてつらいことなどを伝えられるようになったため、蹴ったりたたいたりする必要がなくなったのです。それほど、言葉で伝える力が付くのは大切です。

授業中に発表したり友達の話の話を聞いたりするのも「対話」で、とても大切です。意見を交換することで、一人では解決できない問題も正解できたり、一人では気付かなかったことに気づき、考えを広げたりすることができます。つまり、学力が付くのです。そんな力をぜひ高めたいです。白岩小は、学級の子どもの数が少ないため、対話させるのは簡単ではないと思います。そのことに挑戦してきた先生方に敬意を表すとともに、一つの手立てとして、保護者の皆さんや地域の方々に話し相手になってもらうことが考えられます。すでに行われていると聞いていますが、今年度もよろしくをお願いします。

以上、校長オリジナルの取組は一つもありませんが、いままで行われてきた取組を充実させることで、より良い白岩小学校が築けると信じています。どうか、ご協力をお願いいたします。

※この文章に関する感想、または、学校へのご意見などありましたら  
下の用紙にご記入の上、学級担任に届けてください。

----- き り と り 線 -----

保護者名

年 児童名


# 委員会、発足しました



児童会活動は、自分たちで学校を築こうという気持ちをもつためにとっても大切です。期待しています。今回は、役員と活動目標を紹介します。

## 運営委員会



委員長 S.Hさん  
副委員長 K.Yさん K.Sさん  
書記 Y.Aさん K.Gさん  
【活動目標】明るく元気な白岩小学校にするために積極的に行動しよう

## 放送委員会



委員長 K.Yさん  
副委員長 H.Hさん F.Hさん  
書記 T.Kさん S.Kさん  
【活動目標】放送委員として自覚をもって仕事にとりくむ

## 保健委員会



委員長 A.Kさん  
副委員長 S.Iさん C.Oさん  
書記 W.Rさん T.Mさん  
【活動目標】全校が健康に過ごせるように自分たちの仕事をしっかりやる

## 図書委員会



委員長 S.Rさん  
副委員長 O.Iさん T.Aさん  
書記 S.Rさん K.Kさん  
【活動目標】1年生から6年生までの人が本の楽しさ、面白さを知ってくれるようにがんばる